



VOL 16

2008年10月号

発行2008年9月24日

日本山岳会 山岳地理クラブ

URL www.jac.or.jp/doukoukai/

## 浅間山麓の火砕流と降下軽石

堀内弘栄

### 火山の噴火物

火山噴火ではマグマ magma から抜け出したマグマに接触した水から気化した気体(火山ガス volcano gas)と、その抜け殻に相当する固体の破片、及び液体の状態でも火口を通過するマグマそのものが噴出される。

これらのうち爆発的噴火により火山ガスとともに、ばらばらの固体の破片として噴出される火山灰 volcanic ash (粒径 2~4mm) 軽石 pumice などが、テフラ tephra や火山灰、或は火砕物と呼ばれ、連続して液体として噴出される溶岩 lava と区別される。

さて、一輪廻の火山噴出物：テフラ = 火砕物、広義の火山灰は次のように区分される。

### 降下テフラ

降下軽石 pumice fall deposit(発泡した白色の粗粒物)

降下スコリア scoria fall deposit(発泡した黒色の粗粒物)

降下火山灰 ash fall deposit(径 2mm 以下の細粒物)

### 火砕流堆積物

火山灰流堆積物 ash flow deposit\*(大部分が火山灰からなり大規模)

軽石流堆積物 pumice flow deposit\*(中~大規模)

熱雲堆積物 nuee ardente deposit\*(小規模)

\*溶結したもの 溶結凝灰岩 welded tuff、やや固結したもの、凝灰岩(タフ)tuff

### 火砕サージ堆積物

(ベースサージ base surge、灰雲サージ ash cloud surge など)

多輪廻の火山噴出物：テフラ群：

火山灰(土)あるいはローム loam、赤土 andosol などといわれる。異質・類質物を含むことが多い。

(以上、テフラに関連する熟語は新編火山灰アトラス：町田洋、新井房夫 著を参照した)。

### 火砕流と降下軽石

次に浅間山麓で 2008\_8\_23 見た**火砕流**と**降下軽石**について紹介しよう。

**火砕流**の露頭は約 1100 年前の黒斑火山の崩壊によるもので小諸第 2 火砕流(平原火砕流)と言われる。現在侵食が進んだところが、田切地形となって安定、人々の生活の場となっている。



**降下軽石**の露頭は、浅間山麓、峰の茶屋の近くの東大地震研究所浅間火山観測所の脇に立派な露頭がある。



ここで、露頭を見たときに重要なのは、火砕流と降下軽石の違い。浅間火山に限らず、火砕流は何十 km と高速で駆け下るので、殆どの岩石粒は磨耗され丸っこくなっている。その中に粗いものから細かいシルト・粘土まで(大は人間の家並大のものもある)含みびっしりと詰まった露頭となって残っている。

降下軽石は噴火の軽石、火山灰、火山ガスを含む噴煙柱が成層圏以上に舞い上がり、火山灰や火山ガスは何百 km と飛ばされるが、降下軽石は、比較的粒度が前って、単粒度で落下する。この露頭は1783年(天明3年)の噴火によるもので概ね 2m も溜まっている。

露頭詳細は下記 URL 参照ください。

<http://www.geocities.jp/horiuchihiro/tishitu/tishitu08/asama080823.html>

(2008\_09\_06 記)

連載 ゆにーく 標識&標石

## 新幹線から見える三角点櫓点



東京から長野・上越新幹線に乗り、埼玉県熊谷駅を通過した直後の左側傍に小さな山が見えてくる。地形図上の観音山である。傍なのであつという間に通過することから真剣になって山頂の鉄塔先端に注目して戴きたい。

よく見ると先端が三角点櫓点になっている。その三角形の下に点名『三ヶ尻屋上』の一等三角点(正式には偏心点) 97・5mがある。そして地上には点名『三ヶ尻』77・4mの一等三角点の金属標がある。現在では滅多に見られなくなった三角点櫓点新幹線から見える。この三角点を境に南は武遠三角網、北は美信三角網、同方面平地からの富士山可視領域の境でもある。

とにかく鉄塔先端の三角点櫓点だけに集中しないと新幹線は何事も無かつたようにカタコン、カタコンと軽快に通過して行く。  
遠山記

### 国土地理院との意見交換会

9月10日に山岳会ルームにおいて国土地理院測図部基本情報課の技官2名と宮崎理事、AGC3名(北野、遠山、近藤)が地形図についての意見交換を行いました。現在の地形図に記載されている登山道の現況情報を改訂時に修正するための情報提供等の可能性について、地理院からの要望と、使う側の要望などを話し合いました。今後JACとして協力をすることが可能であることを約束し、支部の情報を含めた一元化を検討することになった。地理院としても、具体的な方法を検討し、今後適宜会合を行い、協力関係を築くことになった。また中央分水嶺踏査報告書に記載された登山道の情報も地理院側で再確認してみるとの事であった。

#### 図書・資料の紹介

#### 浅井健爾著「地図に隠れた日本の謎」

日本実業出版社 ¥762- 気楽な雑学集だが知っておいて損はない内容。話題づくりに最適。

#### 例会の議事録

2008年9月3日(水) 19:00~19:50 於JAC集会室B  
出席者9名(北野、平野、近藤、遠山、鶴田、鶴田、高橋、川口、今井(順不同))  
内容: 国土地理院基本情報調査課から、登山道について地図と実際が異なるところが多いという指摘があったので意見を聞きたいという申し入れがあり、AGCの出席要請が会長からあった。9月10日15時から予定。(北野) 9月27日予定の大菩薩南西部の源次郎岳山行の確認。塩山駅南口午前9時集合。(5月の例会時、コースをキリガ尾根、恩若ノ峰経由に、集合場所を南口に変更していることに注意願います。)(北野) 10月18,19日予定の須坂基線調査の詳細と宿泊最終申し込み確認。(近藤) 整理を終了した旧版地図リストはJACホームページの会員のページに保存したのでパスワードがある会員は見る事が出来る。(近藤) 次回例会は10月1日だが、当日は17時頃早めに来て整理した地図を見ておくことを勧める。(北野・近藤)  
終了後は羽鳥会員を加えて「鯨の家」にて懇親会(10名以上) (記録:今井)

### お知らせ

#### JAC 所有の旧版地図 閲覧方法の説明

AGCにより整理した旧版地形図の説明を兼ねて、閲覧会を行います。(AGC 会員限定)

日時:10月1日 17:00より

場所:JAC201号室(2階階段を登って右、突当り)

#### 地図力検定の案内

今回で10回目となる地図力検定試験が下記のとおり行われます。ぜひチャレンジしてみてくださいいかがでしょうか

10月26日(日) 14:00~15:00 受験料¥3,000-

郵送での受付は 10月17日 消印までです(インターネット受付は10月6日(月)まで)

主催:(財)日本地図センター

問い合わせ先(03-3485-5417)

#### 次回の例会

日時 10月1日(水) 18:30から 於:山岳会 ルーム

テーマ:ほか

なお17:00より201号室にて地図閲覧をいたします(上記)

例会終了後の懇親会も出席ください

#### 編集後記

>9月24日に湯の丸高原で「池の平シンポジウム2008」に参加し、分水嶺の話をしてきました。中央分水嶺の中間点ということ、分水嶺上に一等三角点、スキー場、温泉もあり火山地形の観察ができアクセスもいいので、今後観光資源としてPRすることになりそうです。湿原の乾燥化もかなり進んで、植生の変化が顕著になってきていますので益々のオーバーユースが心配されますが、半分地元で足を突っ込んでいたので複雑な心境です。なお私事ですが、しばらく不在になるため、次号はもしかすると休刊になるかもしれませんが毎号記事のネタに苦労していますので今後も積極的な投稿をおねがいいたします(kon)

AGCレポート vol-16 2008年9月24日発行

発行:日本山岳会・山岳地理クラブ(代表:北野忠彦)

〒102-0081 東京都千代田区四番町5-4 日本山岳会 気付

TEL 03-3261-4433 FAX 03-3261-4441

編集担当:近藤 E-mail:hikarikon@nifty.com